

◆学長スペシャル対談

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
中央農業総合研究センター 農学博士

一木珠樹さん

◆島根大学医学部附属病院×隠岐広域連合立隠岐病院
～島根の地域医療と病院連携を語る～

◆「まちづくり」を通じて地域活性化に参加する学生たち

「mono pro」活動紹介

島根大学の研究・地域貢献事業紹介
島根大学最新ニュースTOPICS





1 出雲産業フェア2011にて研究成果や産学連携活動を紹介

11月5日、6日の両日、出雲ドームにて「出雲産業フェア2011」が開催されました。このフェアは「新しい昔へ〜今を見つめ、昔に学び、新たな一歩を踏み出そう〜」をテーマに、地域企業、大学等の教育研究機関における技術、研究を市民・企業に幅広く紹介し、産学連携の推進や地域の活力を創出すること等を目的としたものです。島根大学からは産学連携センター、産学連携センター地域医学共同研究部門、重点研究部門「S・グリーン・ライフナノ材料プロジェクト」、総合理工学部機械設計研究室、医学部附属病院が出席し、研究成果や産学連携活動の紹介を行いました。



2 生物資源科学部附属生物資源教育研究センターの職員が全国演習林協議会森林管理技術賞を受賞

生物資源科学部附属生物資源教育研究センター・森林科学部門の尾崎嘉信技術職員が、平成23年度全国演習林協議会森林管理技術賞の学術貢献賞を受賞しました。この賞は、大学演習林等における教育・研究や演習林等の維持管理に貢献した職員に対して授与されるもので、尾崎さんは演習林やその周辺で採取された樹木の標本をデジタル化してデータベースを構築。ホームページを通して学内外に公開するなど、教育・研究資料の収集と公開に顕著な功績が認められ、今回の学術貢献賞受賞となりました。



〈表紙写真〉

10月上旬に行われたイベント「松江水燈路」で、武家屋敷を舞台に島根大学の学生によるデザインチーム「mono pro」が「暗夜行路」と題して行ったライトアップの様子。行燈の柔らかな光と趣きのある建物が、なんともいえない情緒ある景観を作り出していました。

広報しまだい
Shimadai
2012.01/Vol.11/CONTENTS

02

トピックス	02
学長スペシャル対談	06
独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター 農学博士 一木珠樹さん	
研究・事業紹介	08
島根大学医学部附属病院 × 隠岐広域連合立隠岐病院 ～島根の地域医療と病院連携を語る～	18
学生の活動紹介	20
サークル紹介	22
島根スサノオマジック紹介 島根大学支援基金寄附者一覧・プレゼント	23

SIMANE
SHIMANE
UNIVERSITY

3 広島オフィスを開設

10月26日広島市中区に「島根大学 広島オフィス」を開設しました。これは、広島にいながらにして島根大学の情報にダイレクトにアクセスするとともに、交流の場としても活用していただくための施設です。開所式では、初めに山本学長から「少子化に伴う学生人口の減少など、昨今の大学を取り巻く状況は深刻で

はあるが、広島オフィスを基点に新たな学生確保に繋げたい。また、在学生の進路・就職のサポートや、産学連携の拠点として、研究・事業の情報提供などにも役立てたい」と挨拶を述べました。続いて、島根県広島事務所長石川厚志氏を始め、ご来賓の方々からお祝いの言葉をいただきました。式典終了後、企業2社をお招きして、「業界研究セミナー」として松江キャンパスとテレビ電話で繋ぎ、松江キャンパスで参加した多くの学生からの質問に答えていただきました。参加企業からは、広島オフィスを利用して会社案内などに役立てたいなどの意見もありました。多くの方々に広島オフィスを活用していただけるよう、情報提供・相談体制を整えております。皆さまの御越しをお待ちしております。



4 第4回日中韓照明カンファレンスにて 本学教員の共同研究が最優秀賞を受賞



島根大学生物資源科学部の佐藤利夫教授と、ハリソン・東芝ライティング株式会社UV事業部が行ってきた新型紫外線ランプに関する共同研究が、9月23日に中国の大連にて開催された第4回日中韓照明カンファレンス(日本・中国・韓国の照明学会共催による国際照明会議)において最優秀賞を受賞しました。この共同研究では、水の殺菌等に使われている紫外線ランプにおいて、波長365nmの紫外線を強く照射し効果的な殺菌効力を有する新型LED紫外線ランプを開発。この研究内容が評価され、今回の最優秀賞受賞となりました。

5 中国・寧夏大学訪問団が来学



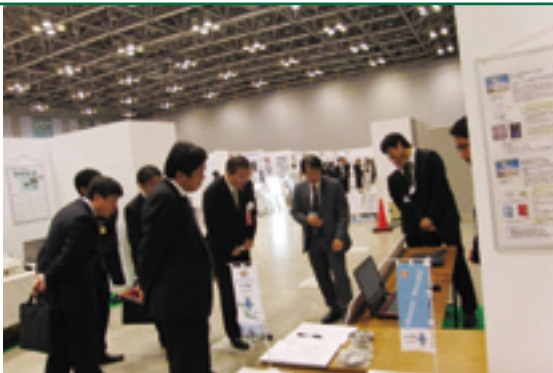
11月28日、本学の協定校である中国・寧夏大学から齊岳書記を始めとする6名の訪問団が島根大学を訪問しました。初めに山本学長から、遠方より本学にお越しいただいたことに対する感謝の意と、両大学の益々の発展に対する祈念が述べられ、齊岳書記からは、島根大学との学術交流に対する深い思い入れが述べられました。その後、終始和やかな雰囲気での懇談が続きました。懇談終了後は、島根大学・寧夏大学国際共同研究所の所長らも交え、今後の両大学間の研究交流事業等の方策についての協議会があり、活発な議論が行われました。

6 「平成23年度 教育・入試懇談会」を開催



11月22日、島根大学と島根県内の公立・私立高校による教育・入試懇談会が行われ、32の高校の校長や教頭、大学の教員約100名が参加し高校・大学の教育活動の現状と課題について話し合いました。この教育・入試懇談会は毎年開かれていますが、今年から高校と大学が積極的に連携し、人材育成のあり方について考える場として内容を新たに開催しました。懇談会終了後は参加された校長先生と学長・学部教員も参加した情報交換会を行い、具体的な連携を考えるきっかけとなる、有意義な会となりました。

7 「第6回 中海圏産業技術展 中海ものづくりフェア2011」に出展



11月18日、19日の両日、中海圏産業技術展実行委員会の主催で、松江市のくまびきメッセにおいて、第6回中海圏産業技術展 中海ものづくりフェア2011が開催され、2日間で4100人の来場者がありました。島根大学からは、総合理工学部の李准教授が歯車の設計や解析技術に関する研究成果を、生物資源科学部の小葉田教授がタカナリ米粉を使ったパンの製造技術に関する研究成果を、医学部の花田准教授が注射薬確認支援システムに関する研究成果を、それぞれ紹介しました。

8 島根大学医学部大田総合医育成センターがオープン

大田市からの寄付による総合医療学講座(寄付講座)のサテライト施設として大田市立病院内に「大田総合医育成センター」が設置され、10月3日に開所式が行われました。開所式には、竹腰創一大田市長、楯野恭久大田市立病院長、小林祥泰島根大学医学部附属病院長、大谷浩医学部長、石橋豊総合医療

学講座教授、野宗義博大田総合医育成センター長ほか関係者約60名が出席し、竹腰大田市長から大田市立病院内に設置された大田総合医育成センターの地域医療における医師確保への取り組みへの期待が述べられました。続いて、小林病院長からはサテライト施設の仕組みが、センター開所により実現し、これから地域医療実践の臨床研修を通して総合医育成を目指すとの挨拶がありました。



開所式に続き、大田市立病院玄関においてテープカットが行われ、大田市立病院職員の皆さんも駆けつけ、盛大な拍手がおくられました。その後、記者会見が行われ、医療機関の少ない地方の公立病院での設置は全国で初めてで、記者からは多くの質問があり、大田市と島根大学医学部の取り組みへの期待の高さうかがえました。

9 ルース駐日米国大使が来訪



10月11日に、駐日米国大使ジョン・V・ルース氏がスーザン夫人、リネハン大阪・神戸アメリカ総領事館総領事と共に本学を訪問されました。今回の訪問の目的は、学生との懇談で、1時間を超える活発な意見交換が行われました。懇談の様子は、多数の学生、教職員もその模様を視聴。懇談会の主な話題は、近年、内向き傾

向が強いと指摘されており、また統計資料等でもはっきりとマイナス傾向が見られる学生の海外留学に対する意識の変化に関するものが中心となりました。ルース大使から、アメリカのみならずヨーロッパ等を含む日本人学生の海外留学が減少傾向にあることへの懸念、その理由についての意見が表され、学生からは留学に係る経済的負担の重さ、就職活動に出遅れること

による不利益等の意見が出ました。最後に、ルース大使から、日米の教育交流の一形態である学生のアメリカ留学増加への期待、そして、日米間の良好なパートナーシップの構築は、掘り下げていけば人と人との繋がりであると信じていること、そのため将来を担う若者との対話を大事にしており、また多数の日本人学生がアメリカに留学し、彼らを通じての日米のより良い未来の構築への期待が述べられました。

10 第2回日中大学フェアに参加



島根大学は、10月9日、10日に東京で開催された「第2回日中大学フェア」に出展しました。このフェアは、日本と中国の大学がブース展示により日中大学間交流、研究交流、産学連携、人材交流等に係る活動を紹介するもので、日本と中国からそれぞれ50数数大学がブースを出展。島根大学からは、伊藤勝久島根大学・寧夏大学国際共同研究所所長を含む5名が参加し、協定校である寧夏大学キャンパス内に設置している「島根大学・寧夏大学国際共同研究所」を拠点とした共同研究や共同調査の成果についてパネル展示、来場者への情報提供を行いました。

11 「平成23年度大学改革シンポジウム 高大接続の地平を開く」を開催



11月20日、松江市で「平成23年度大学改革シンポジウム 高大接続の地平を開く」を開催しました。このシンポジウムは国立大学の教育研究活動を広く社会に発信することを目的とした国立大学フェスタ2011の催しとして今年初めて開催したもので、高校の先生方や大学教員・大学生など約60名が参加しました。2部構成のシンポジウムで島根大学が取り組む高大接続についての講演やパネルディスカッションを行いました。シンポジウム終了後には情報交換会が行われ、独自の取り組みの紹介などに花を咲かせていました。

スペシャル 対談 Special Talk

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
中央農業総合研究センター 農学博士

一木(植原)珠樹さん × 学長 山本廣基

島根大学とわたし

島根大学農学部環境保全学科を卒業し、女性の理系研究者として「独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター」で作物のウイルス病の研究に励む、一木珠樹さんを迎えての山本廣基学長スペシャル対談。旧知の間柄ということもあり、和やかな雰囲気の良い対談になりました。



やまもと・ひろき
1947年生まれ。2009年4月より本学学長に就任。専門は農業環境科学、土壌微生物学。

山本 本日はお忙しい中、ありがとうございます。今回のゲストは旧知の一木さんということで楽しみにしていました。

一木 本当にお久しぶりです。こうやって山本学長にお会いするとうしても大学時代を思い出しますね。大学の研究室時代、山本学長をはじめ、柴田先生(現島根大学副学長)、本田先生(現島根県立大学学長)に混じって、お昼休みにバトミントンし

ていたんですよ。学生は私ひとり(笑)。あれは今から思えばすごい経験だったなあと思います。

山本 懐かしいですね。

一木 職場にいる他の大学出身者と話をしている気がしますが、休憩時間を一緒に過ごすことはおろか、先生と食事をしたこともないという人がいるんです。その話を聞いてびっくりしたんですが、そういう意味でも、島根大学って、先生と学生の距離が近かったんだなあと思います。

山本 日常的に先生方と話せる島根大学の環境は、先輩たちの様々な思考に自然に触れられるという意味で、研究者にとって、社会に出る

前のトレーニングになっているかも知れませんが、いままかり組んでいる研究内容について教えてください。

一木 作物の病気をおこすウイルスの研究をしています。例えばインフルエンザの薬剤も近年やっと開発されたような状況なので、植物のウイルスはまだまだ分からない部分が多く、課題もたくさんあります。また、こうしたテーマ上、これらの農業をしっかり見守っていかなければならぬなと思っています。今までもやって来ていますが、これからは医学や工学などの分野融合での取り組みが、より重要になっていくだろうと思います。



山本 島根大学でも女性研究者を育成し、サポートする仕組みづくりを進めています。

山本 研究者でもあり、二児の母でもある一木さんですが、女性の社会進出ということで見ると、育休等、制度的にはいろいろありますが、文系とは違い、理系研究者は実験が必要だったり、フィールド調査が必須だから、研究から離れる育休等のプランクは影響が大きいと思うんです。



一木 子育てを通じた多様な経験で視野も広がり、それがまた成長に繋がると思っています。



いちき・たまき
1969年生まれ、滋賀県出身。島根大学農学部環境保全学科卒。修士課程、鳥取大学大学院連合農学研究科博士課程を経て、1997年農林水産省に入省、中央農業研究センター（現中央農業総合研究センター）に配属。2児の母として子育てと仕事の両立に忙しい日々を送る。

が、そのあたりの問題はどうか解決してきましたか？

一木 子育てしながらだと、研究だけに集中している時のようには先に進めない。それが焦りにもなり、悔しくもあったんですが、2人目の時には、そんなことでストレス抱えても仕方ないことに気づいて（苦笑）。他人と較べるのではなく、昨日の自分と較べ、少しずつでも先に進むことに専念しました。そうしたら、研究一辺倒では気づけなかった、家庭人としての人生が見えてきたんです。そして、研究者としても視野が広がり、より柔軟な思考ができるようになりました。これは今の私に大きなプラスになっています。

一木 それはいいですね。女性の人生には専業主婦になるか、働くか、子供を産むか、産まないか等々…、悩む場面が、男性より多いと思います。それぞれの道にそれぞれの幸せがある。その上で、研究の道を選ぶ女性が、少なくなる現状もあります。研究者となる以上、成果を出すには継続的にまともな時間と労力を投入する必要がありますから、そのようなサポートの有無は非常に大きいです。これは私自身も利用していますので、痛感しています。女性研究者の活躍を促す大変素晴らしい意義のある取り組みだと思っています。

山本 まだ子どもさんが小さいだろうけど、バイタリテイ溢れる一木さんのことだから、子どもの手が離れたら、またバリバリと研究に精を出すんだろうと期待しています（笑）。本日はありがとうございました。

〔撮影協力〕 山の上ホテル

研究 事業紹介

introduction

法文学部

研究・事業紹介

08

ひとつの作品を完成に導く創造力とチームワーク 映画と写真をテーマにしたユニークな取り組み

法文学部言語文化学科が取り組む「プロジェクト演習」の環として、映画製作と写真集（および写真展）を学生たちに任せ、指導している伊集院敬行准教授。このプロジェクト演習に託された思いなどお聞きしました。

脚本、絵コンテ制作から撮影、編集まで
すべて学生たちの手による短編映画

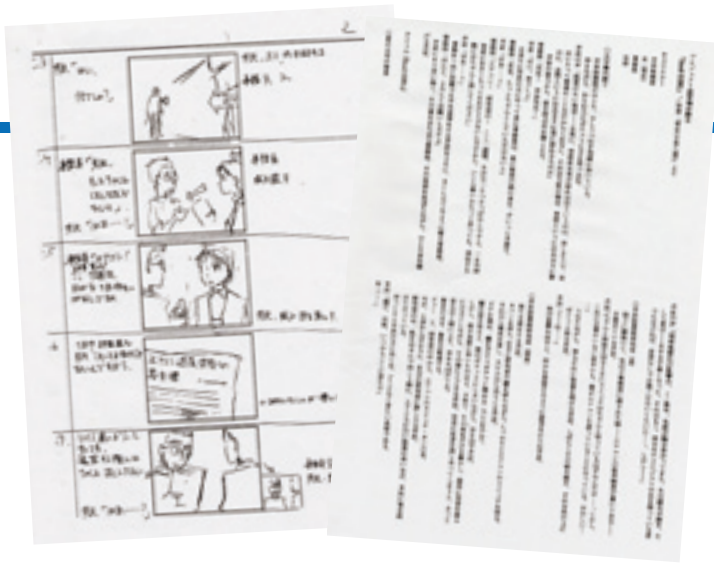
学年や所属学科をこえてチームを作り、そこで何かを計画し、それを成し遂げ、その成果を発表することを目的とする「プロジェクト演習」を展開する法文学部言語文化学科。そのなかで伊集院敬行准教授が指導、取り組んでいるのが「映画製作プロジェクト」です。

その名が示すとおり、授業のなかで10分前後の短編映画を作っていくもので、4～5月に脚本の制作、6月に絵コンテ、7月の撮影と編集、そして秋には

「映画を作る、写真集を作る」といった経験は、経験そのものの貴重さはもちろん、後の就職活動などの、自己が行ったことを相手に伝える、表現する場面でも、一つの話題となればと思います」と語る伊集院准教授。

法文学部准教授
伊集院敬行





映画製作プロジェクトで作られた脚本と絵コンテ。物語の大きな枠組みやシナリオなどの記述ルールなど基本的な事を教え、後は学生が自身で解決策を見つけていきます。



プロジェクトの成果として、上映会やアマチュア映画祭への出品を目指します。

「小泉八雲の『怪談』をモチーフに、所属も学年もバラバラで構成したチームで映画制作に取り組みます。私の役割は、教えるというより、モチーフやスケジュールといった枠組みを決めるだけで、あとは自由にやってもらいます」(伊集院准教授)。

このように、ある程度の条件(制限)を与えることで創意工夫が生まれ、また、その過程を経験することが大切だと伊集院准教授は言います。

「授業で偶然に出会った仲間とひとつの作品を作り上げていく。ここにチームワークが生ま



れ、ひとつの生命体のように有機的に動き出す瞬間があります。チームワークの大切さを経験するには、このプロジェクトがいいチャンスになっている」(伊集院准教授)。

ひとつの大きな目的に向かう創造力と何かを成し遂げるといふ貴重な体験

また、前期授業の映画に対し、後期授業では写真をテーマにしたプロジェクト演習をおこないます。これは、製本を含めた写真集の製作と、写真展を企画し、それを実現・成功に繋げるという取り組みです。



後期の演習で製作された「写真集」の一部。統一のテーマのもとに表現方法を考え、撮影から装丁までの過程を通じて「伝えたいこと」を表現する手法を学びます。

「映画も写真も、学生にどれだけ『いいチャンス』を与えられるか、そこがうまく導けるよう、責任感をもって取り組んでいきます。製作過程の体験もそうですが、上映会や写真展などで、何かを成し遂げたという体験は、社会に出ていくための大きな自信になるものと思っています」(伊集院准教授)。

学生たちの創造する力を引き出す取り組み、これからも期待しています。

研究 事業紹介

introduction

教育学部

研究・事業紹介

10

身近な環境を利用して理科への興味を促す 子どもたちを対象にした出前授業

子どもたちの「理科離れ」が進むなか、幼稚園から中学校までを対象にした、理科野外学習の出前授業を実施し、理科だけでなく、環境保護への啓蒙活動にも取り組む、教育学部の松本一郎准教授に詳しい内容をお聞きしました。

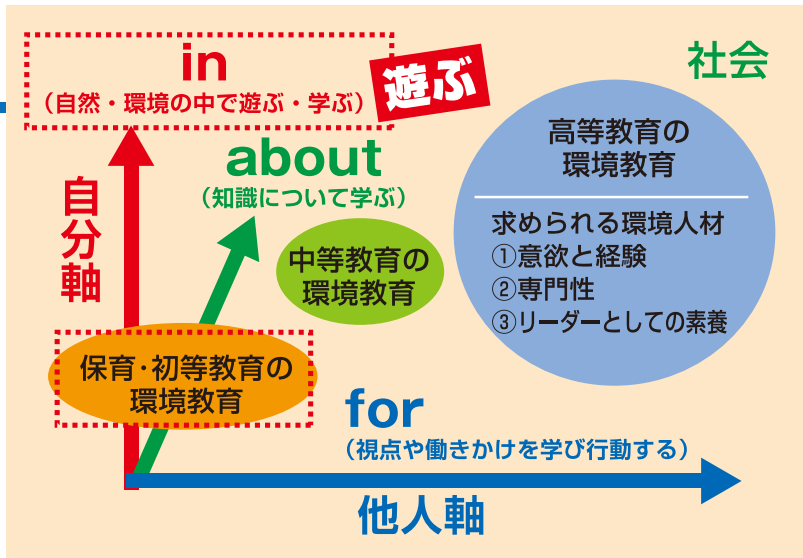
in(遊)about(学)for(行動)
理科から環境問題への下地づくり

「子どもたちの『理科離れ』は資源の乏しい日本では深刻な問題」という松本一郎准教授。文部科学省で定められている小中の野外学習も東京都ではほとんど実施されておらず、島根県でも30%の実施率とのことでした。こういう状況で、「豊かな自然環境の島根県が率先してやらなければ」と、平成15年よりスタートしたのが、幼稚園から中学校までを対象にした、出前授業スタイルによる理科野外学習です。

「身近なところでの遊びや体験が、環境学習の基礎になっていくと思います。豊かな自然環境が残る島根では多様な取り組みが可能なので、これからも精力的に取り組みたい」と語る松本准教授。



教育学部准教授
松本一郎



松本准教授が考える環境教育における取り組みの概念図。小さな子どもたちに遊びを通して自然に触れる体験を与え、大きくなるにつれ知識の獲得、獲得した知識や体験を整理し、周りへの働きかけなどを行えるようにします。



「ポイントとなるのは、E(遊ぶ)、about(学ぶ)、for(行動する)」。幼稚園児を対象にした「E」では、泥だんご遊びをテーマに、土の感触を覚え、遊びに浸りきることの喜びから、理科に興味を持つ下地を作ります。これを伸ばすことで、環境に対する問題意識を養い、行動力(for)へと発展させていきます」(松本准教授)。

小学校を対象にするaboutでは、本物に触れて感じることで、実感を伴う理解を促していきます。島根町(須々海海岸)などをフィールドに、地層の違いを触って実感し、大地のつくりを学びます。このように、身近な環境での興味や発見を経験する

ことで、自分たちの生活に重ね合わせた問題意識に発展していきます。

「子どもたちは真剣そのもので、時間を忘れて取り組んでくれます。理科というテーマですが、日頃、教室では無口な子どもが積極的になったりと、先生や生徒の教室内とは違う一面が見えてくる場合も多いです」(松本准教授)。

大好評の野外理科授業 中学校での展開が今後の課題

現在までで、幼稚園6校、小学



出前授業は授業を受ける子どもたちはもちろん、教育学部の学生が野外授業を実践する貴重な経験にもなります。

校で20校前後の出前授業に取り組み、各校で大きな手応えを感じてきた松本准教授ですが「中学校からのニーズも多いが、規模が大きくなってしまったため、なかなか実施できないという現状があります。今後は、現場の先生方に野外授業のレクチャーをするなどして、小学校で芽生えた理科や環境への興味を環境保護活動などの具体的な行動力に繋げていきたい」(松本准教授)。

松本准教授の取り組みがますます充実していくことを期待しています。

研究 事業紹介

introduction

総合理工学部

研究・事業紹介

12

市場と同等品質の太陽電池が自作可能な環境下 これまでの技術蓄積で革新的な新型太陽電池を

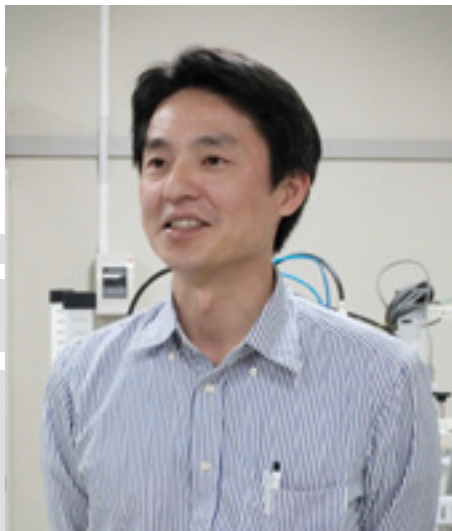
クリーンなエネルギーとして近年注目を集める太陽光発電。太陽電池や薄膜トランジスタ(TFT)に代表される
大面積半導体デバイスの研究開発が専門の総合理工学部・葉文昌准教授に、現在の研究内容についてお聞きしました。

シリコン太陽電池の変換効率を超える
新型太陽電池完成に向けてスタート

本年度より島根大学へ赴任し、太陽電池やTFT(薄膜トランジスタ)などの大面積半導体デバイスの研究開発をおこなっている葉文昌准教授。前職の台湾の大学で立ち上げたような研究環境も整い、学生たちとともにますます精力的に研究を進めておられます。

「いま市場にある太陽電池の9割がシリコン太陽電池で、大手メーカー各社が生産しているそれらの製品も、構造上に大差はなく、効率28%という理論限

「教育機関である大学の研究の主役は学生です。個々にテーマを与えつつ、直接私がやってみせたり、進捗を直接確かめるなど研究と人材育成を両立させるよう心がけています」と語る葉准教授。



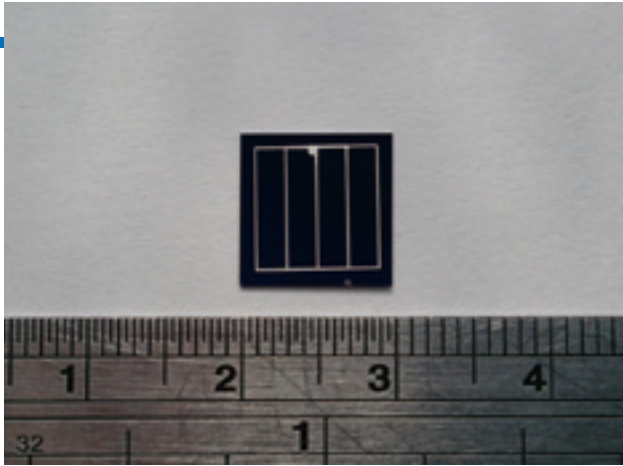
総合理工学部准教授
葉 文昌

地表の太陽光パワー
1000W/m²

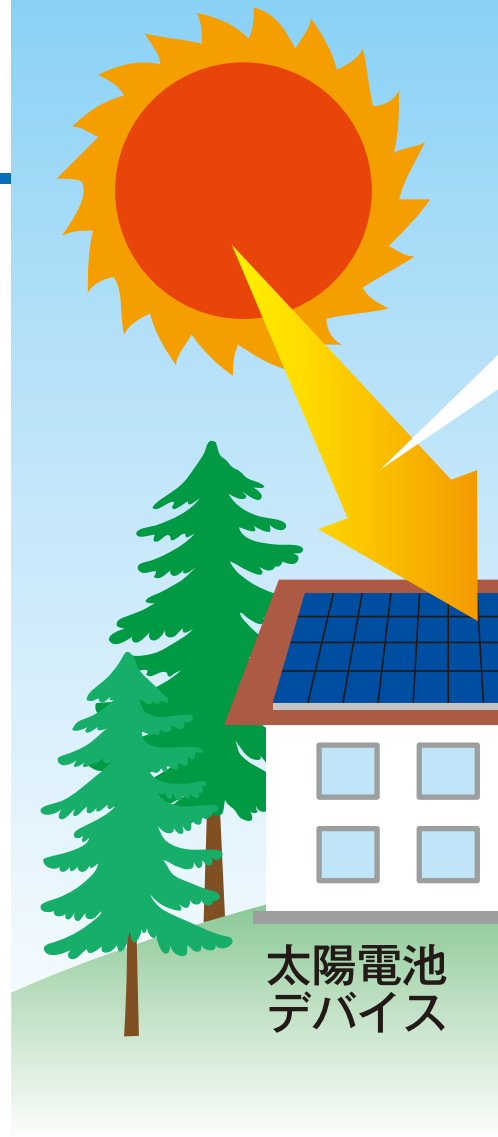
電気パワー
200W/m²

光電変換
(効率20%)

Si太陽電池の効率は約20%でしかありません。
従って100%になるまで
デバイス研究は続きます。
葉准教授の研究もこの部分にあります。



研究室で製作したSi太陽電池。葉准教授の研究室では、新入生にまず太陽電池を作らせて効率を競わせ、太陽電池に馴染ませることを行っています。



太陽電池
デバイス

界も見えています。こういう問題点に対し、従来のシリコンに加え、ゲルマニウム太陽電池の開発に取り組んでいます」(葉准教授)。

**全て自作可能な応用力と機動性
大学教育を包括する研究開発**

シリコン太陽電池によるエネルギー変換効率は約20%ですが、ゲルマニウム太陽電池をシリコン太陽電池に積層することで、シリコンが取り損ねたフォトン(光子)を余分に取り出して電気に変換することが可能で、将来的には30%代も夢ではないと葉准教授は言います。また、葉准教授の研究室では、太陽電池の一部プロセスだけを研究する



葉准教授の研究室では「スパッタ法」と呼ばれる手法で太陽電池パネルの薄膜を製作しています。写真はこれに用いる機材を学生たちがくみ上げているところ。



のではなく、すべて自前で原材料から太陽電池を作りあげられることが大きな特徴です。

「自前の道具(装置)で自分たちの思い描く太陽電池を作れるということとは、修理や改修に迅速に対応できるという事でもあります。研究室の学生には、一部分だけでなく全体を把握できるように、装置の組み立てから製造工程全てに携わってもらい、ひとりでデバイスが作れるまで指導します。これは、木を見て森も見るといった大学教育を実践する目的でもあります」(葉准

教授)。

現在、葉准教授の研究室では、メーカーが生産しているものと同等のシリコン太陽電池を作る技術力を有しますが、実験段階のゲルマニウム太陽電池については「来年には成果を出したい」と葉准教授は言います。

太陽電池を大面積化することで生産効率を上げて低コスト化を図る産業界。それに対して研究室ではコンパクトな装置を使って10mm角の小さい太陽電池を作っています。葉准教授は「研究室では実験装置のダウンサイジングに努めています。装置をコンパクトにすることで、装置コスト、材料コスト、そして環境負荷を格段に下げることができます。更には研究の小回りが利きます。改造したければ、今にでも改造に着手できます。それも三日程度で完了。なので財力と人力の規模が、他の大きな研究機関に劣っていても、それに負けない成果を出すことは十分に可能なのです。」と締め括ってくれました。

「毛」の生え替わり機構の解明や人工的再生など 種々のテーマに取り組みながら教育も視野に入れる

大人(成体)になってからも発生を繰り返すという、生物の臓器・器官のなかで唯一ともいえる特徴をもつ「毛」のメカニズム解明と、そこで向き合う課題を通して、学生たちの応用力向上にも取り組む、生物資源科学部の松崎貴准教授にお話をうかがいました。

取り組みの大きなテーマはふたつ 毛周期の制御機能解明と毛包再構築

かつて所属していた研究室のテーマとして取り組んだのが、毛の研究との出会いだったという松崎貴准教授。

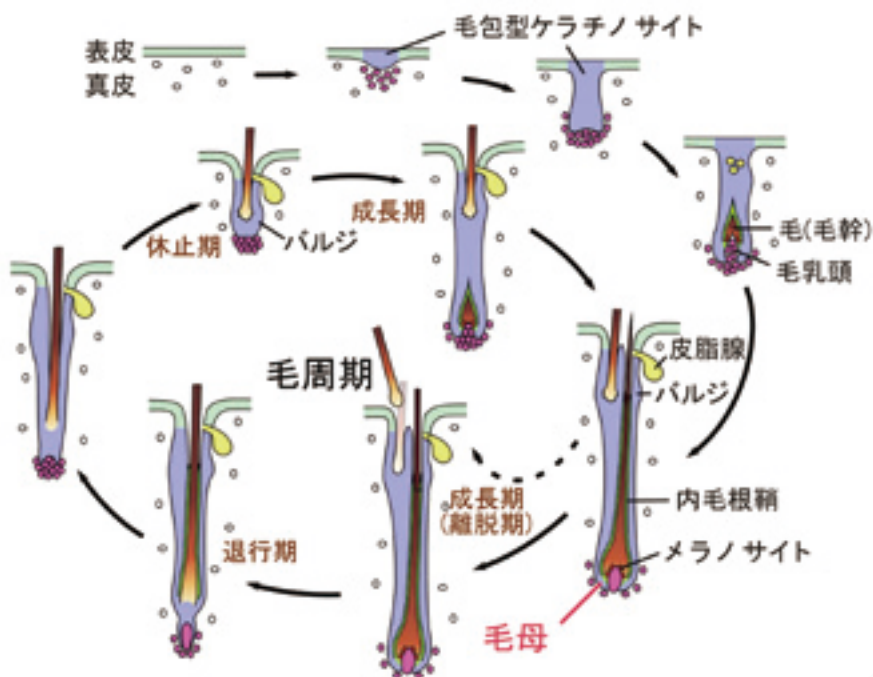
「臓器・器官のなかでも、発生という現象を大人になっても何度も繰り返す(再構築)という珍しい特徴をもつ「毛」の仕組みを解明し、「なぜ、他の臓器はつくり替えができないのか?」といった疑問の追求から、再生医療への活用などを視野に入れ、主にマウスを使った基礎的な研究に取り組んでいます(松崎准教授)。

「多くの学生は卒業後、企業などへ就職しますが、大きな課題を見渡せる視点とその課題を克服していくためのチームワークを大学で身につけ、社会で活躍して欲しい」と語る松崎准教授。



生物資源科学部准教授
松崎 貴

毛の発生と毛周期





遺伝学的に揃ってデータのとらつきが少なく、多様な変異体が実験に使えるため、実際の研究はマウスを材料に行われています。写真はマウスを管理している飼育ラックの様子。

休止期→成長期

バルジから細胞が供給され、毛母に

退行期

毛母細胞が細胞死を起こして消失

毛周期が回るたびに毛母が再生する



発生過程の繰り返し

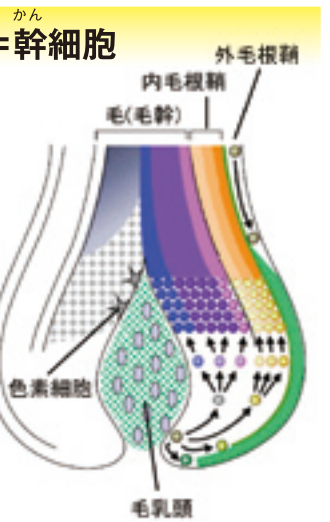
取り組みの大きなテーマは2

つ。ひとつめは、毛の生え替わるサイクル(毛周期(もうしゅうき))の究明です。

「毛周期にはどのようなルールがあり、それには何が必要か?また、その周期の終わりは何で決定されるのか?ホルモンの働きだけでは説明できない部分も多く、この周期の調節機構を発生や臓器・器官の再生で重要な役割をもつ幹細胞や、約24時間周期の体内時計リズムに重要な時計遺伝子などをキーワードに解明していく取り組みです」(松崎准教授)。

ふたつめは、毛の再生です。

「細胞を直接毛にするのは難しいため、毛をつくりだす初期



細胞の供給源=幹細胞

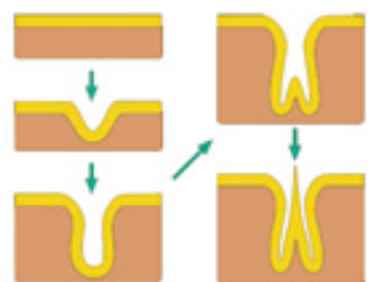
もともと毛は皮膚(表皮)が変化し発生したものです。そのため、毛の伸長は毛母の細胞分裂に支えられ、毛髪の本質と毛乳頭の大きさは相関関係があります。

の細胞を皮膚下に移植するパッチ法と呼ばれる手法で、毛をつくるために重要な役割を果たす毛包(もうほう)の再構築をおこなっています」(松崎准教授)。

各分野との共同研究を展開しつつ教育機関としての大学の本分を果たす

こうした大きなテーマと並行して、育毛剤のスクリーニングや機能解析など、民間企業との

毛は皮膚(表皮)が変化したもの



共同研究もおこなうなど、取り組みの幅も広がっています。

テーマごとに発生する種々の課題と向き合う「毛」という大きなテーマに取り組みの、「広い視野に立つこと」で、各分野とのやり取りや、そこで生じる各種の問題に立ち向かっていく(学生たちの)応用力を養うことも大きな目的。研究も大切ですが、やはり大学は大学生にとって教育を受ける場所。難しいテーマに果敢に取り組み、そのなかで失敗も経験し、豊かな人間性を獲得してほしい」と松崎准教授。

今後の研究と教育の成果に期待しています。

すべての医療とかがわる新たなフィールド オーラルメデイスン外来の診療がスタート

医学部歯科口腔外科で4年前に開設した「オーラルメデイスン」が2011年4月より本格稼働となりました。オーラルメデイスンとは、口の中の異常や口の中に症状を及ぼす全身疾患について診断や治療をおこなうもの。チームを統括する、医学部歯科口腔外科学講座の関根浄治教授に詳しいお話をお聞きしました。

「従来からの口腔外科に加わることで
幅広いケアを可能にする意欲的な取り組み



「口の中はいつでも自分で確かめられるので、かえって良く観察しないということもあります。毎朝の歯磨きなどの時に鏡の前で口の中を良く見て、早めに異常を見つけて、早めに見つけ出すことが病気の早期発見につながります」(関根教授)。

医学部歯科口腔外科学講座教授
関根浄治

ドライマウスの原因

ドライマウス

糖尿病

シェーグレン
症候群

腎不全

更年期障害

オーラルメデイスン外来で取り扱う症状の一つ「ドライマウス」の想定される原因の相関図。「ドライマウス」は口腔内での症状ですが、その原因が全身の疾患と関連がある場合は、他の診療科の医師と連携して治療にあたるのが「オーラルメデイスン」の役割です。

関根浄治教授率いる医学部歯科口腔外科学講座では、4年前にオーラルメデイスン外来を開設し、2011年4月より本格的な外来診療を始めました。4年前の着任以来、関根教授が強化推進してきたオーラルメデイスンという分野は、専門の外来窓口を開くのは全国でも数少なく、中国地方では初となります。本来、口腔癌に代表される、口腔内(口の中)疾患の外科的治療が中心の歯科口腔外科ですが、口腔内科とも呼

口から全身の病気がわかる例



舌の痛みにより来院なされた2例。左は貧血により、赤く平滑(つるつる)になった状態の写真。右は胃食道逆流症で胃酸が口内に逆流し、舌が荒れ溝状舌(しわしわ)を呈した状態。このように口の中には全身のご病気に関わる様々な症状が現れます。



ばれるオーラルメディシンを強化することで、予防改善を含めた、今まで以上に幅の広い医療が可能になりました。

歯科フィールドだけでは
ない
オーラルメディシンの役割

オーラルメディシン外来で扱うのは、「全身と関連した疾患」「唾液量の低下などで口の中が乾くドライマウス」「現代病とも関連の深い、口の中の原因不明の痛みや違和感(歯科心身症)」「骨粗鬆症等の治療に用いるビスフォスフォネート製剤関連の顎骨壊死」「疾患の予防改善を目的とした口腔ケア」など多岐にわたります。

特に高齢者の多い島根県で

は、薬の副作用や心身的な悩みからドライマウス等の症状が現れることもあります。また、こうした症状が全身疾患と関わる場合もあるため、異常のサインを口の中からどれだけ見つけられるかが重要になります。

県内を網羅するオーラルメディシン外来
地域との連携でさらに大きな取り組み

県内16箇所の関連施設(病院)のうち、現在、県西部の益田赤十字病院、国立病院機構浜田医療センターでは、本年度よりチームに加わった、オーラルメディシンのエキスパート、上野 繭美 医長によるオーラルメディシン外来を開設。医学部附属病院での診療と同じクオリティのケアを可能にするための取り組みを行っています。

「口腔外科だけでなく、すべての医療とかかわるのがオーラルメディシン。メンタルケア、口腔ケアを含めて、フィールドはまだまだ広がっていきます。今後は地域の先生方との連携も含めた大きな取り組みにしていきます」

い(関根教授)。
極めて重要な役割を担った
オーラルメディシン。今後の取
組みに注目です。

取材当日には、オーラルメディシン外来を担当する上野 繭美 医長も、詳細な説明をしてくださいました。初診日は火・木曜の午前中で、かかりつけ医の紹介状が必要です。医学部歯科口腔外科学講座のホームページでも情報を閲覧いただけます。



医学部附属病院歯科口腔外科
オーラルメディシン 医長
上野 繭美



島根の地域医療と病院連携を語る



安野光雅画伯の絵の前で

隠岐広域連合立 隠岐病院

小出博己 病院長

隠岐病院は、「この島に住む、安心の医療」を合言葉に、築後30年以上が経過し、老朽化・狭あい化した病院を新築し、隠岐医療圏の中核病院にふさわしい医療機能の整備を進め、益々の躍進を目指しています。



Q 現在整備中の隠岐病院の
特徴は何でしょうか？

A まずは現在の病室は個室が
少なく、6人部屋が多いこと、

さらに外来用の狭い処置室で化学療法をおこなったりと、現在の医療体制にそぐわない施設の老朽化を改善し、高性能な機器も導入して、最新型の病院に生まれ変わります。また、今まで手書きだった紙カルテが電子カルテに変わること、効率化も図れます。

離島という地域環境では、医師を含めたマンパワーが少ないので、ある程度高度な医療になると、本土への搬送が必要になります。そのような場合に備え、屋上にはヘリポートも整備されます。こうしたハード面の刷新に加え、ソフト面充実としての医療スタッフの教育も研修期間を設けて体制を整えて

いきます。また、現在、歯科医師1名を含む、医師16名体制の充分とはいえない状況ですが、地元診療所との連携により補い、加えて、島根大学医学部附属病院から本院を希望する研修医も増え、地域医療を支える力になっています。今年4月より産婦人科医2名となり、初産分娩、帝王切開等が可能になったのは明るい材料です。

Q 地域の医療環境を含め、どうい
う病院にしていきたいのでしょうか？

A 島内には開業医4名、町立
診療所4箇所、医師3名がお
られますが、こうした他の医療機関とのネットワークを組んで、島全体としての医療に取り組んでいきたい。例えば、



隠岐病院では外来患者数が圧倒的に多く、入院患者の治療や検査などが円滑におこなえないという問題があります。これに対し、診療所の医師に応援を頼んだり、少ない人数でも充分対応できるようなネットワーク

及び、連携を築いていきたい。

本土との連携については、これからは電子カルテ等、ITを使用することによっていろいろな面で円滑な連携が可能になってくると思っています。私自身、古くからIT技術に関与してきた経緯もあるのですが、今後もITを軸にした連携への取り組みを積極的に進めていきたい。また、後続する志のある医師養成のため、へき地医療の教育実践の場として機能する体制を整えていきたい。



今年春にリニューアルする隠岐病院の完成イメージ図。総病床数は115床に減りますが、これまで以上にきめ細やかな地域医療を行います。

島根大学医学部附属病院×隠岐広域連合立隠岐病院 病院長インタビュー

6月27日に新病棟を開設した島根大学医学部附属病院。今年春の新病棟開院をひかえる隠岐広域連合立隠岐病院。今回はこの二つの病院の病院長に島根の地域医療、病院連携について、それぞれお話をお聞きました。なお、小出博己病院長は、島根医科大学4期生で、本学出身では初の隠岐病院長です。



島根大学医学部 附属病院

小林祥泰 病院長

医学部附属病院は、医師を育てる教育機関としてへき地医療を中心とする島根県の医療に貢献したいという強い使命感を持った意欲ある学生を発掘し、育成しています。



Q 6月に完成した新病棟の特徴は何でしょうか？

A 新病棟が6月に完成しましたが、従来の診療科別ではなく、機能別であることです。例えば、15才以下の子どもは、その疾患の担当診療科に関わらず、皆、小児センターに入りますが、このような取扱いにより、診療科を超えたチーム医療がやり易くなります。患者さんへの治療の質の向上のみならず、医療スタッフのレベル向上にもつながります。また、ハード面では、1階の救急センターにはじまり、30人収容できるICU、ロボット手術など新技術にも対応できる広い手術室など、高度医療機関としての機能を充分に果たせるよう、整備しました。病室も、例えば、腫瘍センターでは、食堂やトイレを含む



無菌エリアを設置し、化学療法等の必要な患者さんの生活の向上を実現しました。また、緩和ケアセンターでは、従前の終末期医療のイメージとは違い、がん治療等が必要な方に早期から入ってもらい、副作用の対処や苦痛緩和など、患者さんと家族の生活の質を高め、効率よく治療をおこなえる環境を目指しています。他に特徴的なものとして女性専用病棟もあり、女性のメタル面もサポートするなど、全ての病棟において、あらゆる癒し効果を考えてあります。また空調を各フロア別にするなど、感染症対策にも配慮しました。また、施設の充実のみならず、患者さんにとって大切なのはソフト面も含む快適な療養環境の確保です。過ごしやすい環境で、医療だけでなく、メンタル面からも回復をサポートしていきます。改修中の既存の病棟が完成する再来年には、こうした新しい医療の仕組みが完全に機能するようになります。

Q 今後の展望は？

A 機能別にデザインした施設で、症状の度合いにより異なる治療にあたるという、すべての診療科を横断したチーム医療を推進してきましたが、総合的に見て、円滑にスタートしたと思います。今後は、救急救命センターのさらなる機能強化や、今まで当地には「緩和ケア病棟」がなく、「緩和ケア」という概念がまだ十分に浸透していないので、地域の医療関係機関などへの普及活動もおこない、地域との連携をさらに強化していきたいと思っています。

島根大学は医療の拠点としてだけでなく、島根県全体の地域医療の再生を担う拠点でもあります。隠岐を含む離島やへき地医療を支えるとともに医師を育てる教育機関として、他の地域のロールモデルとなるよう、誠意を持って取り組んでいきます。

6月に開院した医学部附属病院。ハード面はもちろん、これを契機に地域医療、教育など、大学病院としての機能が大きく拡充しました。



建築の知識を活かして素材を大切にしたものの作りへ 地域活性化にも繋げていく「mono pro」のアート活動

島大生の活動紹介

mono pro

松江観光の初秋を飾るイベントとして定着した「松江水燈路」で、武家屋敷を舞台にした「暗夜光路(あんやこうろ)」を企画・製作する、島根大学の学生によるデザインチーム「mono pro(モノプロ)」に、発足の経緯やその他の活動内容を聞きました。

自分たちの表現を 学外へと広げるべく 「mono pro」を結成

城下町松江の夜を彩るイベントとして人気の「松江水燈路」(9〜10月土日祝)。夜の松江城周辺をライトアップするこのイベント

のなか、「暗夜光路(あんやこうろ)」と題して武家屋敷のライトアップを企画製作するのが、島根大生のデザインチーム「mono pro(モノプロ)」の面々です。この水燈路の他にも数々のアートイベントに参加しているmono pro代表・柴田直人さん(大学院1年生)に、これまでの経緯や活動内容をうかがいました。

「建築・設計を学ぶ学生たちの中から「先生や学生など学内だけでしか見てもらえない自分たちの作品をもっと多くの方々に見せたい、そこからいろいろと吸収していきたい」という欲求が生まれたのがmono pro結成のきっかけでした」。



松江市の松浦正敬市長も訪れ、この取り組みを視察されました。



**出雲和紙の出会いで
実現した企画展
初めての学外活動で
大きな刺激**

こうした思いを抱いていた mono pro 最初の活動が、平成22年3月に松江市の殿まちギャラリーで開催された「和紙の可能性〜若いデザイナーがつくる gallery&cafe」だった。

「出雲和紙職人、安部信一郎氏との出会いがあり、そこから発展したものです。僕らの世代にとって、触れることの少ない和紙をもっと知ってもらうため、自分たちのアイデアで新しい和紙の表現を提案しました」。

12名のメンバー(当時)が、準備期間3ヶ月を費やし、日頃学んでいる建築の要素を取り入れ、和紙を素材にした空間アートを制作。また、文房具や家電を繋がりを持たせた和紙製ケースの販売など、発想の面白さで好評を博しました。

「初めての学外活動でしたが、製作はもちろん、地域や行政の方々など、多くの人と関わらせてもらい、それが大きな刺激になりました。僕自身、自分には何ができるのか？自信になるものは？といった疑問や不安を抱えていましたが、この経験を通じて、もの作りへの想いを再認識できましたし、それが将来への自信にも繋がりました」。



取り組みについて話をしてくれた「mono pro (モノプロ)」代表の柴田直人さん。今後もこの取り組みを発展させ、たくさんの学生に関わって欲しいとのこと。

**見てもらいたいから
知ってもらいたいへ
目標は mono pro が
発信するアート企画**

「最初に、和紙という素晴らしいテーマをいただいたおかげで、当初の作品を見てもらいたいから、素材を知ってもらいたいという気持ちに変わっていきました。自分たちの作品は、そのためのツールになれたらいいこと」。

その思いは、第一弾の「トワイラ

イト・ミュージアム2010」(県立美術館に始まり、昨年の水燈路参加、「ふまい茶庵」(組み立て式茶室デザインワーク)等、本年度の水燈路まで活動が途切れることなく続いています。

「活動が充実しているのも、地域や行政の支援のおかげ。町に育てられている感覚が強いです。そうである以上、自分たちだけが満足するのではなく、もっと多くの人を巻き込んで、育ててくれた町へ地域活性化という恩返しをしたいです。またこちらが主体性をもった企画を発信していきたいです」。

今後の mono pro の活躍も楽しみにしています。



ライトアップした武家屋敷での一コマ。「mono pro (モノプロ)」のメンバーは現在は総合理工学部の学生が主体のメンバーです。



漕艇部は、OBを中心とした後援会からボートの寄贈を受けたり、卒業生が練習に顔を出したりと、強い絆で現役生と卒業生が結ばれています。



漕艇部

29年ぶりに
国体決勝進出の快挙！
大橋川を練習フィールドとした
歴史あるクラブ

50年以上の歴史をもつ鳥根大学漕艇部は、現在、44名の部員が精力的に活動しています。4月〜10月がシーズンとなりますが、さまざまな大会に出場するべく、オフシーズンには監督との個人面談をおこない、部員それぞれ来季に向けた取り組みを決めるスタイルが特徴です。

今季は、埼玉県戸田市ボートコース大会や関西選手権で好成績をマーク、山口国体では、ボート成年男子ダブルスカクル決勝で箕浦良文キャプテンと矢地謙太郎選手が鳥根選抜として4位の快挙となりました。

「有力な選手が多く集まる私大に較べると、国立大は選手層などで苦労するぶん、結果が残せたのが嬉しい。チーム全体としては、来季のインカレで結果を出すことが目標です」と箕浦キャプテン。来季の活躍にも期待しています。



忙しい合間をぬって行われる合同練習の風景。ダンスに取り組む学生たちの表情がとても生き生きとしていたのが印象的でした。



医学部ダンス部

ストリートダンスの仲間
自由な雰囲気をもつ
楽しく踊って地域の活性化にも
貢献していきたい

ストリートダンス好きの仲間
で結成された、医学部ダンス部「FLOORINES」(フロリネス)も結成5年目を迎えました。「自由に楽しく、ダンスや音楽を楽しむ」をコンセプトに、学内での主催イベントや学園祭などの学内活動から、松江キャンパスや鳥取大学医学部などの他校主催イベント、地域の祭りなど、精力的に活動しています。

また、出雲の文化振興を目的としたダンスイベント「ダンスシヨートケーキ」や、ストリートミュージシャンとの共同イベント「大心路(だいしんろ)」といったイベントを主催するなど、地域活性化にも目を向けるのが特徴です。「持ち前の自由な雰囲気を大切に、大学だけでなく、地域からも僕たちの活動を楽しみにしてくれような存在になつていけたら」と部長の辻将大さんが今後の抱負を語ってくれました。

鳥根大学オリジナル芋焼酎

神在の里 好評発売中

生物資源科学部神西砂丘農場で生産されたサツマイモ「ベニアズマ」を原材料とした「芋焼酎」

●神在(かみあり)の里(720ml) **2本入りセット**…**3150円**(税込)
※鳥根大学生協でしか販売しておりません。

鳥根大学生活協同組合
〒690-8504 鳥根県松江市西川津町1060 Tel.0852-32-6240
<http://omis.eiseikyuu.jp/shimane>

もっと身近にメリット!! ●毎週月曜更新!

鳥取・島根のおしごとサーバー

Webメルिट

求人情報を
携帯電話から
簡単検索!!

<http://job.merit-inc.net/m>

パソコンからは…クリック!
求人メルिट 検索
<http://job.merit-inc.net>

メルキー
就職説明会
面接会等の
情報も満載

株式会社メルिट 求人事業部 松江市古志原 5-2-43 TEL.0852-23-1749



島根大学は島根スサノオマジックを応援しています!



神話第3章

実力伯仲、混戦の西地区を抜け出せ!!

2011年10月、アウェイでの宮崎との2連戦、2連勝で幸先のいいスタートを切った我々がスサノオマジック、つづくアウェイ高松とも2連勝。開幕4連勝でいきなり、西地区首位に躍り出ましたが・・・。

10月15日、16日	対)宮崎シャイニングサンズ	75-66(O)	83-78(O)	神話第3章、最高の出だしを決めました。
10月22日、23日	対)高松ファイブアローズ	80-73(O)	101-63(O)	今季初の100点ゲームも飛び出し、4試合を終え島根が西地区の単独首位へ。
10月29日、30日	対)大阪エヴェッサ	59-62(●)	70-63(●)	昨シーズン6勝6敗の負けを返せず、対大阪は8戦全敗。点差以上に大阪の実力を見せつけられました。
11月5日、6日	対)滋賀レイクスターズ	103-77(O)	69-83(●)	ジェリコHCの出場停止にも今季2度目の100点ゲームで勝利を飾る。
11月12日、13日	対)新潟アルビレックスBB	86-82(O)	78-82(●)	昨シーズン2連敗の新潟と米子で対決。両試合とも4点差の好ゲーム。
11月19日、20日	対)ライジング福岡	88-95(●)	90-78(O)	昨シーズン、大阪と同じくプレーオフも含め6戦6敗と鬼門の福岡も、2日目待望の初勝利をゲット。
11月26日、27日	対)京都ハンナリーズ	69-90(●)	86-89(●)	5位と6位の直接対決も、2日目は互いの総力戦も、結果はまさかの2連敗。



11月末現在、島根スサノオマジックは7勝7敗と西地区6位の成績になりました。しかし3位の滋賀とは2ゲーム差。プレーオフホーム開催の為、スサノオマジックが課した本年の目標は4位。ここから逆襲のスサノオ絵巻が始まります。

2012年1月からの試合は詳しくは島根スサノオマジック公式HPでチェック
<http://www.susanoo-m.com/>

島根大学支援基金寄附者一覧 ご協力ありがとうございました。(平成23年9月~11月にご寄附いただいた皆様)

- 団体からのご寄附 島根大学文理学部法学科昭和45年度入学生クラス会
- 個人からのご寄附 澤 須美夫 高木 秀人 竹谷 享祐 永田 まち子 福本 貞雄 元上 竹松 柳原 敏郎
(五十音順・敬称略)

※ご寄附をいただいた皆様の中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載していません。

島根大学では学生に対する修学支援を一層充実させるため、「島根大学支援基金」を募集しています。

寄附書はホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。

TEL:0852-32-6603(総務課) ホームページ:http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund_recruit/

投稿のお願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

投稿先 〒690-8504 松江市西川津町 1060 島根大学 広報室
 FAX: 0852-32-6019 E-mail: jsy-bunsyo@jn.shimane-u.ac.jp
 ホームページ: <http://www.shimane-u.ac.jp>



Present

ご意見を頂いた皆様の中から抽選で10名様に島大農場で収穫されたブルーベリーを使ったオリジナルジャムをプレゼントします。



※当選者のお知らせは発送をもってかえさせていただきます。
 ※応募必切/平成24年3月15日必着

編集後記

新年明けましておめでとうございます。昨年の日本は、当地、山陰での記録的な豪雪に始まり、戦後最悪の自然災害となった東日本大震災及び福島原子力発電所事故、紀伊半島の土砂災害、…と正に「天変地異」と言うべき激変の年でした。悲しく残念なことも多い年でしたが、新たに増えてきたこともありました。日本しか供給できない先端技術部品の多さ、そして震災により分断されたサプライチェーンの復旧の予想以上の速さ、輪番停電を乗り切る創意工夫など、日本には誇るべきものがたくさんあり、そして何よりも、戦後の復興を果たした日本人の勤勉さは失われていないと再認識できた1年でもありました。これからの1年が、被災地

復興への、そして世界における日本の更なる飛躍への確かな一歩となりますように。

さて、今回の学長対談は女性研究者として活躍する一木さんでした。珍しく東京で行った対談でしたが、筑波から、島根から集まった島根大学関係者で、懐かしい思い出話に盛り上がったひと時でした。思い出の地、思い出の人々、そんな繋がりが一生の財産になっていくのかもしれませんが、貴方と島根大学を結び、本学の広報誌「広報しまだい」も、そんな繋がりの一助となれますように、編集スタッフ一同精進してまいります。次号「広報しまだい12号」をお楽しみに!

公務員試験対策のコトなら! LEC松江北陵校【提携校】

公務員講座

狙え! '13年公務員試験合格!!
 おすすめは「スーパースペシャルコース」
 理系のキミには、技術系公務員講座もあるよ!

公務員試験2次対策

応募書類・論文の添削指導、模擬面接、模擬集団討論会など
 専門家によるサポートを活用しよう!

親御様からのご相談や三者面談も随時受け付けています。

合格のLEC **LEC松江北陵校** お問い合わせ ☎ **0852-32-3909**

提携校: アイム教育事業部

月~金/9:30~19:30(営業20:30迄) 土/10:00~17:00(営業18:00迄)
 【所在地】松江市北陵町52-2 ゆめつくす北陵1階(アイム教育事業部内)

アイム教育事業部は、株式会社東京リーガルマインド(LEC)の提携校として、各種提携校通学(Web/DVD)講座の受付・実施、通信講座の受付を行っています。この広告物の内容は発行日現在のもので事前の予告なしに変更する場合があります。予めご了承下さい。

荒れた森林を元気にしよう! 私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。



山陰合同銀行

島根大学への第一歩を踏み出そう。

◆平成24年度入試募集要項一覧

http://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/admission_data/application/apply_h24

◆入試情報 資料請求方法

http://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/admission_data/application/application01.html

島根大学では入試情報や大学に関する資料を右記の4つの方法で配布しています。また入試情報や資料請求に関する詳細は、島根大学ホームページでも公開しています。

テレメールで請求する方法



パソコンから
請求する場合

下記のテレメール進学サイトにアクセス
<https://telemail.jp/?des=034661&gsn=0346655>
法科大学院の募集要項のみこちらにアクセス
<https://telemail.jp/?gsn=0363155&des=036311>



携帯電話から
請求する場合

右記のQRコードを
読み取り、
資料請求サイトに
アクセス



法科大学院の
募集要項のみこちらの
QRコードを
読み取ってください。



※郵送開始後は、受付終了日に注意して申し込んでください。※受付から2,3日で送付されます。
※送料は、資料に同封されている支払い方法に従いお支払いください。

モバっちょで請求する方法



パソコンから
請求する場合

下記のサイトにアクセス
<http://djic-mb.jp/shimane-u>
※支払方法は、クレジットカード決済のみです。



携帯電話から
請求する場合

右記のQRコードを読み取り、資料請求サイトにアクセス
※支払方法は、携帯電話の通話料金と
一緒に支払い、又はクレジットカード決済です。



郵便局で請求する方法

全国の郵便局(簡易郵便局を除く)に設置されている「郵便局用願書請求カタログ(国公私立大学・短期大学及び通信教育課程・大学校 募集要項(願書)請求申込書)」に貼付の払込取扱票に必要事項をご記入ください。その後、最寄の郵便局の窓口で送料と払込手数料を添えてお申し込みください。

※申し込みから到着まで一週間程度かかります。出願締切日を各自ご確認の上、余裕を持ってお申し込みください。

※請求できる資料は、「一般入試学生募集要項」と「大学案内」のみです。

※ゆうちょ銀行・郵便局窓口での取扱い期限は平成24年1月20日(金)までです。

大学に直接請求する方法

松江キャンパス

■大学窓口での配布

平日の8時30分から17時まで教育・入試企画課入試企画担当(松江キャンパス 学生センター2階)で配布します。

■郵送による請求

封筒見本(<http://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/request/request01.html>)を参考にして封筒に記入し、切手を貼りつけて、下記のお問合せ先まで請求してください。

出雲キャンパス

■大学窓口での配布

平日の8時30分から17時まで、医学部学務課入試・大学院室(出雲キャンパス 医学図書館1階)で配布します。

■郵送による請求

封筒見本(<http://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/request/request02.html>)を参考にして封筒に記入し、切手を貼りつけて、下記のお問合せ先まで請求してください。

※募集要項(願書)には多くの種類がありますので、資料名【入試名称(推薦、一般、編入など)や学部名・研究科名等】を詳しく明記してください

■FAXまたはメールによる請求について

出願期間が迫っている場合または出願期間中は、FAXまたはメールでも請求を受け付け、着払いの宅配便で送付します。下記お問合せ先にご連絡ください。

お
問
い
合
わ
せ
先

●法文学部・教育学部・総合理工学部・生物資源科学部(松江キャンパス)

島根大学 教育・学生支援部 教育・入試企画課(学生センター2階)

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 TEL:0852-32-6073 FAX:0852-32-9726

E-mail:nyu-nyushi@jn.shimane-u.ac.jp

●医学部(出雲キャンパス)／島根大学 医学部 学務課 入試・大学院室(医学図書館1階)

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1 TEL:0853-20-2087 FAX:0853-20-2079

E-mail:nyusi@med.shimane-u.ac.jp



SHIMANE
University